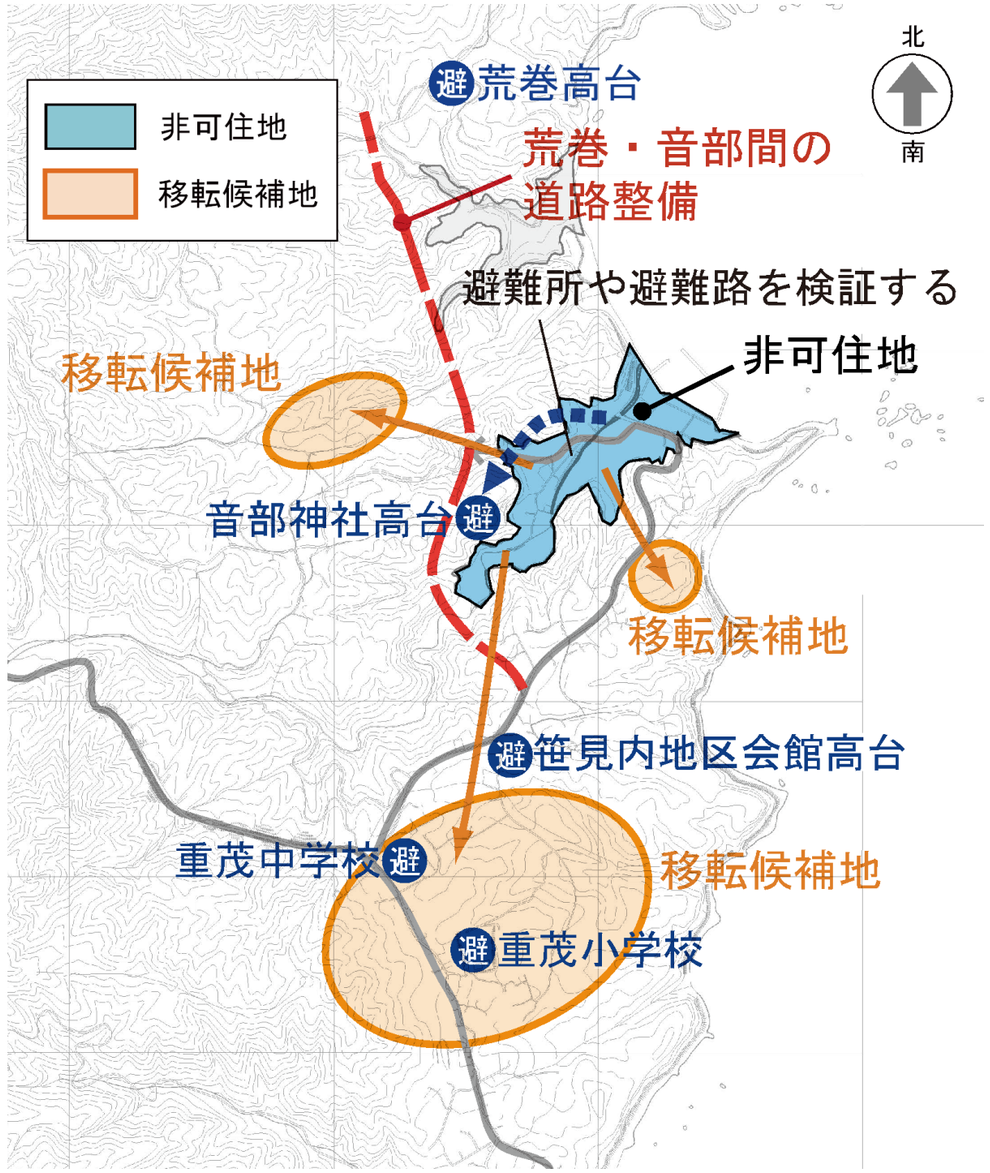
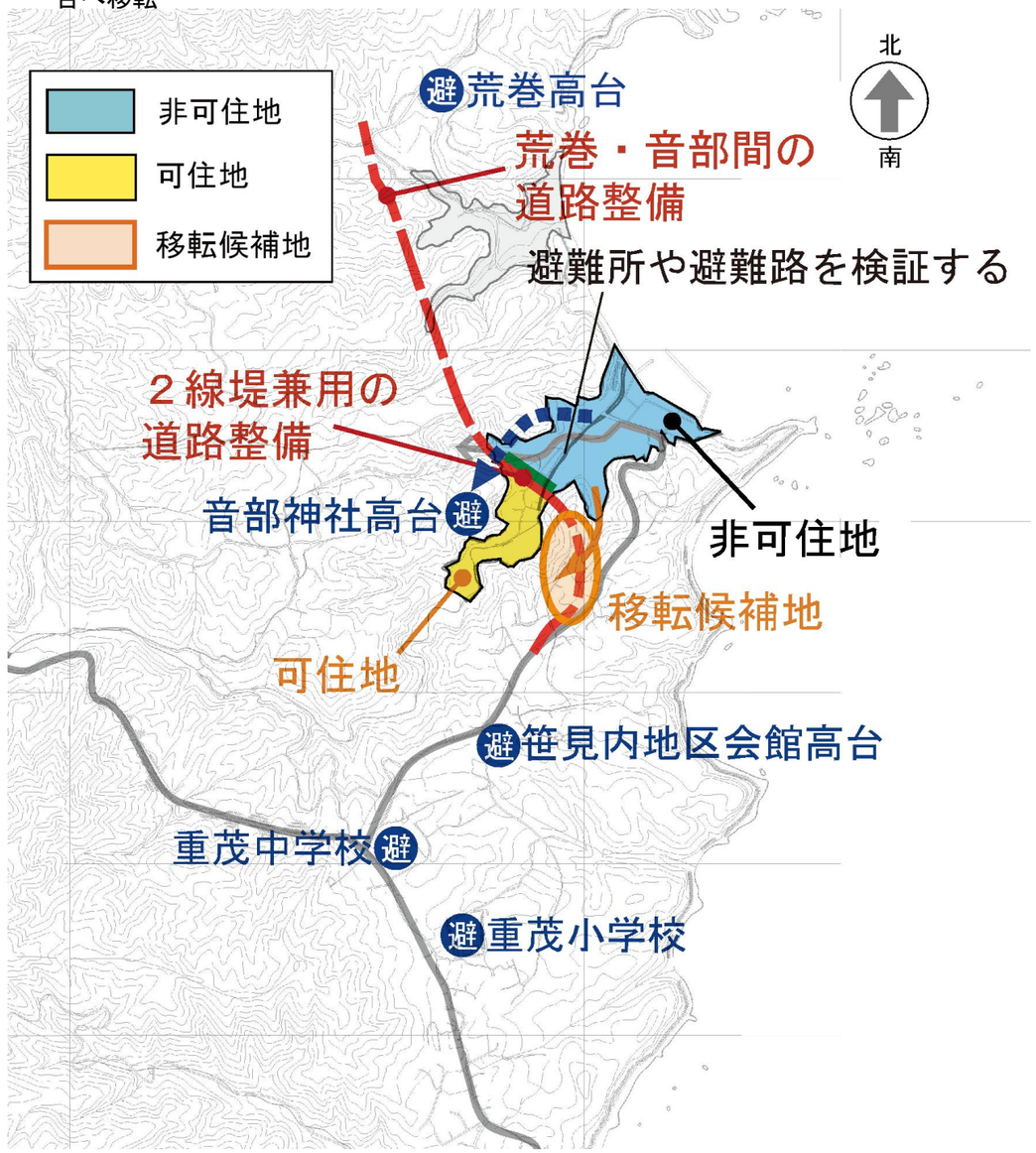
■ 音部地区の復興パターン案について

被害の状況		・ 防潮堤を乗り越え、地区一面に津波が押し寄せた。 ・ 浸水面積は 16.2ha にわたり、浸水高は TP+12.6～15.6mとなり、最大浸水深が 13.5mに達した。 ・ 浸水区域内の建物（住宅以外も含む）の 98.1%が流失または撤去となる被害を受け、壊滅状態である。	
復興まちづくりの考え方		・ 災害時も孤立することのない自立した純漁村を形成する。 ・ 住む場所は津波被害を受けない安全な場所に確保する。 ・ 津波到来時も孤立することなく地域間を連絡できる道路を整備する。	
復興パターン案	イメージ図	案Ａ：今回の浸水区域は非可住地とし、住宅を背後地の高台へ移転  	案Ｂ：２線堤（水門）機能を兼ねた市道新設し、それより山側を可住地、海側を非可住地とし高台へ移転 
	特　徴	・ 住み慣れた場所に近いところへの移転を行う。 ・ 非可住地であっても漁業施設用地としての活用はできるが、住む場所と働く場所が分離することになる。	・ 住み慣れた場所または住み慣れた場所に近いところへの移転を行う。 ・ 非可住地であっても漁業施設用地としての活用はできるが、住む場所と働く場所が分離することになる。 ・ 市道を嵩上げするため、住宅地への取り付け道路が必要となり、土地利用が制限される場合がある。